

りんご黒点病の伝染源はりんご園外にもある

農林総合研究センターりんご試験場

りんご黒点病は、りんごの果実に多数の黒色小斑点を生じる、県南地方に特異的に発生する病害です。これまで、発生生態が不明であったため、的確な防除ができませんでした。研究の結果、りんご以外の果樹も伝染源となることが明らかになりました。



りんご黒点病

発生する果樹と症状

りんご、西洋なし、日本なし、まるめろ及びかりん。
7月上旬～下旬に、黒色の小斑点が生じた後、やや窪んだ濃緑色の病斑になります。



洋なし黒点病



日本なし黒点病
矢印は病斑を示す



まるめろ黒点病



かりん黒点病

黒点病菌の生活史



りんごの被害落葉
右上は病斑部の拡大（黒い部分が菌糸群）



子のう胞子

被害落葉上で越冬

子のう胞子飛散
(4月末～7月末)

果実や葉が、リ病

黒点病は、りんご、西洋なし、日本なし、まるめろ及びかりんのいずれにも発生し、それぞれが伝染源になります。

防除方法

- ・各果樹の被害落葉の処分
- ・スコアMZ水和剤の落花直後と落花15日後の散布

お問い合わせ

りんご試験場県南果樹研究センターまで(Tel.0178-62-4111)